

a 学校教育目標	学び、高め合い、認め合う大和中生 ～夢や目標を抱き、地域・社会に貢献する 生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命)社会のために役立つ志を持つ生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像)夢を抱き、基礎基本を身に付け、心豊かで郷土から頼りにされる生徒の通う学校
----------	---	----------------------	--

評価計画				自己評価					改善方策	学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	基礎・基本の定着・向上を図り、活用する力を育成する。	①意図を持った研究授業及び研究協議会を通して全教科の授業力向上に努める。 ②標準学力調査の正答率40%未満の生徒への個別指導を月に2回以上取り組む。	①授業がよくわかるという生徒アンケートの肯定的評価【研究】	80%	89%	91%	113%	A	①「授業がわかりやすい」の肯定的評価が91%で高かった。 ②放課後、個別指導で基礎的な問題を繰り返して、理解を深め、自主学習を活用して、個々の習熟に応じた支援の仕方を工夫する。	①引き続き、技能、思考・判断・表現について、目標を明確にして授業改善を進めていく。 ②個別に取り組むことができるよう、自主ノートを活用して、個々の習熟に応じた支援の仕方を工夫する。	○			個別指導の成果が上がっていることは好ましい。今後も、この取組を続けていく。 自主学習については指導者がどう支援していくかが大切になってくると思う。 生徒の取組に期待。 「授業がわかりやすい」肯定的評価が高い。授業がわかりやすいことは学力向上の中心だと考えます。先立方の二努力に敬意を表します。 次年度、個別最適化学びを小中でいよいよ進めたい。小学校の責任大です。 先立方の授業力向上についての熱意を感服します。 本校が学習意欲を高めていることがわかります。	
			②2月2回の個別指導実施【教務】	80%	100%	100%	125%			①「授業や家庭学習で何に取り組みよいかかわっている」とは83%であったが、低学力層の生徒は、取り組む内容が明確になっていない。 ②「自主学習に取り組んで成果を感じる」は78%であった。一方、自主学習できていない問題をそのままにしておき、対策が不十分であるという課題がある。	①自主ノートで取り組むべき基礎的な内容を教員が示し、繰り返し演習するように指導する。 ②家庭学習だけでなく、授業の中でも習熟度に合わせた自主学習を充実させる。	○			
豊かな心と健やかな体	積極的な生徒指導の推進と心身の健康の増進を図る。	①いじめアンケートの実施後に、個人面談週間を実施して生徒理解に努める。 ②Sと連携し教育相談の体制や取組を充実させる。	①学期1回のアンケート及び個別面談の実施【生徒指導】	100%	100%	100%	100%		①いじめアンケートを毎学期1回実施し、それに係る個人面談を行った。 ②生徒支援委員会は1/27現在で30/35を実施。概ね毎週実施している。SCからの助言を得たり、SGによる全生徒対象の授業を計画的に実施したりして生徒理解に努めた。	①来年度も年3回のいじめアンケートを実施し、実施後は個人面談を迅速に行う。 ②今後も委員会を時間割に位置づけ、計画的に実施する他、実態に応じて適宜委員会を開催し、生徒理解に努める。今後とも委員会等でSCの助言を受け、教育相談体制を充実させる。	○			アンケートからの個人面談においては、アンケートに記入できない子もいるのではないかと考えている。その辺りをしっかり聞いておく必要がある。 支援委員会が更に機能するよう願います。 自分が認められる感よくないという声も出てきています。また、自分が一日一回は委員へのことばかけをお願いします。 いじめ防止として、「生徒支援委員会」による取り組みは素晴らしいことだと思います。今後とも継続実施を期待します。併せてSCによる支援も大事だと考えます。	
			②週1回の生徒支援委員会実施【生徒指導】	100%	100%	100%	100%			①自分には良いところがある」は77%、「自分のよさが周りから認められている」は79%であった。幅広い意味での自己理解・他者理解が課題である。 ②企業による出前授業を数回行ったことで、授業で学んだことと社会とのつながりに気づく生徒がいると考えられる。	①他者からの肯定的評価をフィードバックする場(発表へのコメントなど)を設ける。 ②今後も企業による出前授業を色々な学年で実施することで、社会とのつながりを実感できるようにする。	○			自己肯定感が低い傾向ではないが、生徒の姿、態度によって評価は異なると感じています。自分自身で評価を高めることは、食に関する意識の向上以上に、家庭に対する感謝の気持ちを持てることも大切な課題だと考えます。
			①協働的な学び合いや異学年交流・外部人材の活用により、多様な人との交流を通して、自己・他者理解を進め、人間関係を広げ、自己を表現する力を育てる。 ②小中が連携し、地域・企業と連携したキャリア教育のカリキュラムを開発し、実践する。	80%	76%	78%	98%	B		①男子は100%、女子が85%の肯定的回答であり、目標値を上回った。男女共修の影響もあり、集団づくりも授業づくりの課題となる。 ②10/29(土)に実施。「食に対する関心が深まった」90%、「食材や食事に関わっている人への感謝の気持ちが高まった」89%の肯定的評価が得られた。また、食育や健康教育についての保護者の肯定的評価は97%だった。	①個々に課題を提示したり、運動を選択したりするとともに、仲間とかわり合いながら活動できる場を設定していく。 ②今後も継続して取り組む。生徒には、給食や関連教科での学習など、当日までの取組を、保護者には、事前事後の説明および情報提供を充実させる。	○			授業や部活動における人間関係を大切にしたいです。 無理のない中で非日常づくりが大切にできるとよいと思います。 自分でお弁当をつくることは、食に関する意識の向上以上に、家庭に対する感謝の気持ちを持てることも大切な課題だと考えます。
			①保健体育科の授業や部活動、学校行事において運動に親しむ態度を育成し体力の向上を推進する。 ②「自分で作るお弁当の日」を通して食に対する関心を高め、感謝の心を育む取組を図る。	80%	90%	92%	115%	A		①夏休みに野球部と陸上部が学校近郊のゴミ拾いをした。2年生の職場訪問の際に、お世話になった地域の企業、施設に、学校で育てた花の苗を届けた。10月に赤い羽根募金を行った。12月に、3年生が花の苗を植えた。 ②生徒会執行部で校則改正案を作成し、臨時生徒総会を開いて承認され、校長へ提出して承認された。教職員は校則の見直し案を協議した。今後保護者に周知し、2月中旬以降に改正予定。	①他の部活動については、コロナ禍で思うように活動ができていないが、3学期末までに学校周辺の道路のゴミ拾い清掃活動等の活動を行う予定。 ②来年度も、生徒自身に校則の意義を理解させた上で、校則について意見を述べてもらう取組を生徒会を通して継続し、規範意識の醸成を図る。	○			園小中の連携した取組はしっかり立て、それがよい方向に行きよう願います。 校則については生徒や保護者が納得できるようお願いいたします。先立方の意見も取り入れてください。 まず、先立方が先発でやってくださることが重要です。先立方の一人一人の先立方もしっかり目を向け、お互いアドバイスをお願いします。 地域貢献活動、課外活動を通じて、きわめて大事な取組であると考えます。但し、競争とのバランスも大事です。その辺りの取組は是非両立を願います。 教職員の時給労働45時間以内への取組については、形式的な取組ではなく、業務の抜本的見直しによる削減が必要と考えます。貴校の対外的な取組は期待しています。 次年度、重点を絞って効果的、効率的に園小中連携をすすめてほしい。 自助努力や他校対応では解決できないものがある。園の対外的な取組のため人的・物的環境整備など行政の対応を望んでいます。 校則は改正すべき点があればいいから。
信頼される学校	地域・保護者と連携を深める。	○大和3部会(R4年7月より、園小中連携教育推進協議会に変更)で園小中の連携を図り、15歳で身に付けていた力を部会で共有し、つなぐ力の定着に取り組む。	○各部会のつなぐ力についての生徒アンケートの肯定的評価【教頭】	80%	89%	平均86%	108%	A	早起き81%、朝食94%、履物そろえ97%、あいさつ93%は高いが、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒や読書時間が短い生徒がいる。	①探点のテストの持ち回りの頻度は減っているが、全体の割合は変わらない。早期退校の呼びかけ、業務への優先順位の設定等の呼びかけを継続して行う。 ②継続して実施する。	○				
			①自分たちが生活しているふるさと大和町への地域貢献活動に地域・保護者と連携し取り組む。 ②生徒会活動において、ルールやその意義を考え、自治による改善を図る活動をを進める。	100%	約50%	約80%	約80%	B		①4月から12月の平均、毎月5名程度が45時間を超える。研究発表や成績、分掌の業務によることが多い。 ②週2日の部活動休養日は実施できた。定時退校日については提示して、呼びかけた。		○			
			①業務改善について日課を見直すなど校内の体制やルールを整理し、改善を図る。 ②部活動休養日・定時退校日を計画、完全実施する。	80%	66%	65%	81%	B				○			

【:自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。